

Amir Tsarfati 氏  
2018年9月21日公開（日本語版は12月11日公開）  
滅びない世代  
（カルバリーチャペル・タスティンにて）

.....  
皆さん、おはようございます。ここにいられることを大変光栄に思います。  
美しい教会、美しい人々、美しい南カリフォルニアの空。  
さてご存知の通り、メディアは、皆さんに「イスラエルに行くな」と言います。超危険ですから。  
そこで私は、よし、分かった！と、アメリカにやって来て、テレビをつけると、  
ハリケーンです。  
だから私は、まあ良い。と思ってアジアに行くと、台風・・・  
超大型台風です。

結局のところ、イスラエルは、そこまで危険ではありません。  
メディアが、皆さんに悪い印象を与えているのです。実際、私は、メディアのことをミデヤン人と呼んでいます。皆さん、ご存知ですね。  
イスラエルは、例えばシカゴよりもずっと安全です。  
先月のシカゴでの死者数は、この10年間の、イスラエルの死者数を上回ります。  
物事は、正しい視点で見なければなりません。

皆さん、理解しておいてください。私たちは、信じられないような時代に生きています。  
私は、何年も聖書預言を教えて来ましたが、将来に起こる事について教える時、いつも希望的な側面がありました。しかし、それが起こっている時代に生きているのと、話が異なってきます。  
昨夜、イスラエルは、ダマスカスで空爆を行いました。皆さん、ご存知かどうか分かりませんが、  
数機のF-16を送り込み、それから彼らにギフトカードを送りました。  
先月我々は、ひっきりなしに貨物機がダマスカス国際空港を出入りしていることに気づきました。  
そこで荷降ろしされている物を、そしてそれらがどこに保管されているのかも、我々ははっきりと目撃しました。そこは以前、彼らが武器を保管していて、我々が破壊し、また再建された倉庫でした。今回、彼らは、  
トリックを行い、これら倉庫の屋根にペンキを塗って、「UN/国連」または、「DHL(エクスプレス)」と書いていました。DHLの色で。



ダマスカス空港で、UN、DHLの倉庫に偽装したイランの倉庫

そこでDHLに電話してみると、彼らはダマスカスには何も持っていなくて、国連に電話をしてみると、彼らはダマスカスの空港には、倉庫を持っていませんでした。  
そこで我々のすべきことは、ただロシアに連絡し、これから我々が何かを実行しようとしていることの理解を得て、そして国務省・ペンタゴンに、  
「国連とDHLの倉庫が駐車場になる。」  
と通告します。はたして、その通りになりました。

私にとって信じられないのは、今、イスラエルは、イランがシリアで地位を確立するのを見張っていること、そしてトルコがシリア北部で地位を確立するのを見張っていること、それからダマスカスを攻撃するのに、ロシアの許可を得ているということ。信じ難いことです。

もちろん私は、聖書預言を教える時には、確実にそれをお話ししますよ。でも、今日と昨日のニュースの見出しを引用するのは、わけが違います。ロシアは、すでにイスラエルの国境にいます。

事実、シリアと我々の国境をパトロールしているのは、ロシア兵、ロシアの国旗をつけた、ロシアの車両です。私たちは、彼らを毎日見えています。

そして驚きなのは、——私が、ユーチューブやフェイスブックで毎週行っている、アップデートをご覧になっている方は、どれくらいいらっしゃいますか？

——皆さん、恥を知るべきですよ。少ないですね。ご覧になれば、分かりますが、ほんのこの数週間の間に、イスラエルは、我々の所には、自分達が思っていた以上に、天然ガスがあった事に気付きました。天然ガスの貯蔵量が、我々が最初に思っていた量の2~5倍あった事が分かったのです。我々は、こんにち、ヨーロッパへのガス輸出において、ロシアの大きな競合相手になったのです。

分かりますか？

現在我々は、ギリシャ、キプロス、イタリアと、地中海海底にガスパイプを敷く交渉をしているところで、その費用は70億ドル。実際、アメリカは、自分たちもこのプロジェクトに関わりたいた言っています。そのために、ロシアは110億ドルの別のガスパイプ・プロジェクトをドイツと契約しようとしているのです。トランプ大統領は、アンゲラ・メルケルにはっきりと言いました。

「あなたは、我々があなたを守ろうとしている敵と取引しながら、私がNATOであなたを防衛するなど、期待してはいけません。」

それは、上手く行きません。事実、NATOの事務総長が、初めて今日、他のメンバーたちにプレッシャーをかけて会費を支払わせたことを、トランプ大統領に感謝しました。

ですから彼らは、激しくバッシングや中傷、あらゆることをした後、ようやく理解をして、気づいたのです。

「この男は本物だ！今、自分たちは、お金が流れ込むのを目にしている！」

ここでは2つの選択肢があることを、皆が理解しています。

プーチンの操り人形になるか、別の方法で事を行うか。セルビアや、ハンガリー、ブルガリアといった、長年鉄のカーテンの下にあったいくつかの国は、ソビエトの支配下に戻るという選択肢は、もはや選択肢ではありません。彼らは、それを望んでいません。

そしてそれによって、イスラエルが候補に上がります。

アメリカのエネルギー省長官は、先日、ギリシャで行われた会議に参加して言いました。実際、ジョン・ボルトンも、次のように発言しました。

「ヨーロッパは、イスラエルからガスを買うべきだ。」

さて、私は2018年に生きて、イスラエルが、ロシアと競合するのを目にしています。

しかし、ロシアがこの競争を好んでいないと知るのは、あまり良いものではありません。

そこで、明確にしておきますと、ロシアの顎<sup>あご</sup>にかけて、イスラエルとの国境にまで引きずり出す「鉤」はすでにかけられていて、すでに効果を出し、すでにはるばる下って来て、今、我々の国境にいます。そして、ほんの数週、または数ヶ月で、彼らは理解するでしょう。

イスラエルは、味方である自分たちに、資源を戦利品として渡すほど優しくはない、と。

私は、神が預言者を用いられることにいつも感動します。イスラエルの預言者になるためには、——皆さん、預言者になろうなんて思っははいけません。良いですね？

皆さんは、おそらく、そのようには召されていませんから。

新約聖書の中で、神は、旧約聖書の預言者たちを通して、私達の父祖たちに語られた、と伝えられています。

(書記注：ヘブル人への手紙1:1参照)

それから預言者は決して、彼らの私的解釈を加えなかったということ、皆さん、理解しておいてください。

(書記注：第二ペテロ1:20参照)

エゼキエル 38 章を開いてみると、のちに起こる戦争について書かれていて、そこでは実際に、主が、エゼキエルを通して、告げておられます。

17 神である主はこう仰せられる。あなたは、わたしが昔、わたしのしもべ、イスラエルの預言者たちを通して語った当の者ではないか。

(エゼキエル 38:17a)

面白くないですか？エゼキエルは、彼自身のことを書いているのです。彼は、その事を知りもしませんが、彼は、将来起こる事を書いていて、実際彼は、ロシアに対して、こう言っているのです。

「あなたは、エゼキエルが書いていた、あの者ではないのか？」

それを、エゼキエルが書いている。それを、私たちは、まさに目の前で見ていますから、驚きです。イスラエルの預言者達を、起こっている事の図から取り除くことは出来ません。彼らは、ものすごい描写を、私達に与えてくれたのです。

それから、ヘブル人への手紙 1 章は、こう告げています。

- 1 神は、むかし先祖たちに、預言者たちを通して、多くの部分に分け、また、いろいろな方法で語られました、
- 2 この終わりの時には、御子によって、私たちに語られました。神は、御子を万物の相続者とし、また御子によって世界を造られました。

(ヘブル人への手紙 1:1-2)

ということで、見ての通りイエスは、預言の言葉を一節として否定することなく、同じ役割を受け継がれました。

そして次に、イエスはその公生涯を終えようとしていた時、彼は、オリーブ山で使徒たちに囲まれていました。使徒たちは、誰一人としてカトリック教徒でもなければ、正統派クリスチャンでもありません。そうです。イエスは、彼のユダヤ教徒の使徒たちに教えておられ、彼は、エルサレムにおられました。明確にしておきますと、地球の歴史上、エルサレムはイスラエル以外、他のどの国の首都にもなったことはありません。ということで、ユダヤ教のメシアが、ユダヤ教の使徒たちに、ユダヤの首都で、ユダヤ人たちに語っています。私たちは、文脈を正しく理解しなければなりません。なぜかといえば、使徒たちがイエスに聞いた質問に対して、イエスは、素晴らしく且つしっかりと時間をかけて詳細を答えておられるのです。使徒たちがたずねているこれらの質問は、ユダヤ教徒にとって、ユダヤ教の神殿、メシア、終わりの時に関する、真っ当な疑問です。当時、異邦人は誰一人として、終わりの時やメシア、エルサレムの神殿について考えている人はいませんでした。事実、エルサレムの神殿は世界で唯一、一切像が置かれていない神殿だったのです。それは、当時の異邦人にとって、大きな謎でした。こんなに巨大な建物でありながら、その中に像が一つもないとは、どういうことだ?! あなたたち、頭は大丈夫か? 2000 年前、異邦人たちがイスラエルを訪れると、3つの事に驚愕したと言われています。

- ① 像が一つもない神殿、
- ② 一週間の内、誰も働かない曜日、
- ③ そして、誰もが浮かぶ海。

さて、当時の異邦人たちは、唯一神や、像が全くない神殿に興味はありませんでした。ですから、イエスはユダヤ人に対して、当時でさえ、ユダヤ人たちが興味を持っていた、ユダヤ教の問題について語っておられたのです。彼はそれを、オリーブ山の上でされました。

そのため、これは「オリーブ山の垂訓」と呼ばれます。

オリーブ山の頂上で、イエスは使徒たちと共に座っておられました。

ところで、イエスは彼らの質問に対して、怒っておられませんよ? 彼は、その疑問がどこから来ているのかをはっきりと理解しておられ、時間をかけて詳細に答えられたのです。

4 節から 31 節まで、彼は、ユダヤ人達に向かって、ユダヤ人達の将来について語っておられます。

そして、32 節からは、ユダヤ人達にそれらが起こっている間に起こる事を、別の視点から説明しておられます。その中で彼は、何か別の事、誰か別の者について、他の集団のことを語っておられます。ところで、彼らもまた、その一員です。

では、マタイ 24:32-35。これが、今朝のメッセージの主題です。

### 32 いちじくの木から、たとえを学びなさい。

(マタイ 24:32a)

イエスは、イスラエルが通らなければならない全ての事を説明された後、イスラエルに関する教えの最中で一旦止まって、次に使徒たちに、こう教えておられるのです。

「聞きなさい。いちじくの木からたとえを学びなさい。」

つまり、「今からわたしは、いちじくの木の話をするが、それは、いちじくの木そのものの話ではなく、何かの象徴だ。それはたとえにすぎない。」と。

そして、こう言っておられます。

**枝が柔らかくなって、葉が出て来ると、夏の近いことがわかります。**

(マタイ 24:32b)

「わかります。」と言ってください。

「思う」のではなく、「予測する」のでもなく、「わかる」のです。

**夏の近いことがわかります。**

### 33 そのように、これらのことのすべてを見たら…

(マタイ 24:32-33a)

「見たら」と言ってください。

「それについて語る」のではなく、「それを望む」のでもなく、「夢見る」のでもありません。まさにその目で「見る」のです。

### 33 そのように、これらのことのすべてを見たら、あなたがたは、人の子が『戸口まで』近づいていると知りなさい。

(マタイ 24:33 『』は訳者補足)

200m 先でなく、200 マイル先でもなく、どこですか？

『戸口まで』

すぐそこです。

ですからイエスは、基本的には、使徒達に、こう言っておられるのです。

「見なさい。いちじくの木を。あの、枯れたいちじくの木を覚えているか？あれが息を吹き返すのだ。」それから、

### 34 私はあなたたちに言う、これらすべてのことが起こるまでは… この世代は過ぎ行くことがない。」

(マタイ 24:34 岩波翻訳委員会訳 1995)

彼は言われます。

それを“見る”世代、その木の、再誕を“見る”世代、

「その世代は、過ぎゆくことがない。」「これらすべてのことが起こるまでは」

どの“こと”ですか？彼の再臨です。

### 35 この天地は滅び去ります。しかし、わたしのことばは決して滅びることがありません。

(マタイ 24:35)

まさに、神が、詩人や預言者を通して、聖書の中で何度も言っておられることです。

## 8 草は枯れ、花はしぼむ。だが、私たちの神のことは永遠に立つ。

(イザヤ 40:8、第一ペテロ 1:24~25)

わお！

ですから彼は、イスラエルの終わりについて説明しているその最中に、一旦止まって、今度は彼らに、言っておられます。

「聞きなさい。次に、私が伝える事は、イスラエルとしての、あなたがたに言うものではありません。あなたがたは、違うのだ。あなたがたは、わたしに従った。あなたがたは、これを逃れられるのだ。しかももし、あなた方の生きる世代が、いちじくの木の花の芽吹くを見るなら、それだ。

それが、最後の世代です。」

わお！皆さん、ご自分をつねってみてください。

彼は、それはたとえだと言われました。つまり、いちじくの木は、ただの象徴です。

さて、いちじくの木についてお話しする前に、主が言われた「世代」について、少しお話ししましょう。認めましょうよ。学者や、神学者、教師や牧師達は、何年も「世代とは」について思いを巡らし、議論してきました。ある人は、20年だと言い、ある人は30年、ある人は40年だと言い、また別の人はもっと長いと言う。世代についての疑問は、常にありました。

そこで、彼が言われた世代とは、何を意味しているのか、また、それにそぐわない他の選択肢は何なのかを、ご覧いただこうと思います。

まず、私達が理解しなければならないのは、聖書的に世代とは、人の寿命を意味します。

創世記、詩篇、エレミヤ、使徒の働き、ヨシユア記に見られる通り、世代とは、聖書の中では常に、受胎から始まります。

中絶賛成派の皆さん、命は、受胎で始まります。

ですから、寿命を語るなら、寿命は、受胎から始まり、そしてそれは、死で終わります。

子どもはただ、9ヶ月の間、泳ぎを楽しんでいるのです。

その子はどこにいるのか？スイミング！

子どもは生きています。皆、子どもが活着ているか、常に確認します。

ただ、泳いでいるのです。

それから、彼には変わった食べ物があります。買う必要はなくて、ただ体が作り出す、それだけです。驚きです！

感動的です。私の妻が妊娠していた時、お腹に触れて赤ん坊の足が見える<sup>たび</sup>度、私はいつも感動しました。私は、自分が妊婦になれるか自信がありません。

出産の痛みや何かを別にしても、体の中に、何か生き物がいるのですよ。

ものすごいことです！なぜ、これは生き物ではない、と言う人がいるのでしょうか？

子どもは蹴ったり、話したりして、驚きです。その上、泳いでゴキゲンで。

その後、何が起こるかなんて、想像もしていない。

だいたい同じ時代に生きた人たちの平均寿命で、世代の長さが定められます。

言い換えれば、こちらでは12歳、こちらでは92歳なら、80歳の年齢差がありますが、

しかしあなたがたが、一緒に同じ事を見ているなら、あなたがたは、それらを見ている同世代になります。

12歳であれ、82歳であれ、92歳であっても、皆さんはその世代です。世代とは、特定の集団の寿命です。

聖書の洪水の前、人の平均寿命は900歳を超えていました。聖書がそれを記録しています。

こんにち、100歳まで生きた人は、有名人です。

しかし、皆さん、理解しておいてください。洪水の後、罪や何かのためにどんどん短くなっていきました。ちなみに、ダビデが死んだ時、彼は70歳でしたが、年配者とみなされていました。

もちろん、年月とともに物事は進歩し、定かではありませんが、この百年ほどでしょうか、薬や医療が発達して、今は寿命が延びています。もう、50歳とか60歳ではなく、今はまた、戻りつつあります。実際、毎年平均寿命は延びています。

ある人たちは、言います。

「世代とは40年だ！聖書が、「荒野世代」について告げている。」

説明します。

民数記32章、詩篇95篇、ヘブル書3章には、荒野世代に関して書かれています。しかし、ここでの世代とは、世代の寿命のことを言っているわけではありません。ここは、全く別の事を告げています。読んでみましょう。民数記には、こうあります。

- 11 『エジプトから上って来た者たちで二十歳以上の者はだれも、わたしがアブラハム、イサク、ヤコブに誓った地を見ることはできない。彼らは、わたしに従い通さなかった。  
12 ただ、ケナズ人エフネの子カレブと、ヌンの子ヨシュアは別である。彼らは主に従い通したからである。』  
13 主の怒りはイスラエルに向かって燃え上がったのだ…彼らを四十年の間、荒野にさまよわされた。

(民数記 32:11-13)

ですから皆さん、理解しなければなりません。彼は、20歳以上の者に対する宣告について語っていて、彼らに荒野での40年を与えられたのです。

ですから、そういう意味で40という数字は、何も重要ではありません。

なぜならここでは、彼らは、少なくとも60歳ですから。

ですから40年という期間は、実際には、モーセの時代の不従順な世代が、荒野で死ぬまでに要する期間です。

ですからここは、寿命を意味する“世代”ではなく、裁きの期間です。

20歳に達していた人たちに対する呪いが下され、40年の裁きの期間が終われば、ヨシュアとカレブを除いて、60歳以上の人は誰もいなくなりました。

もちろん彼らは二人とも、他の人たちよりも長生きしましたから、寿命は60年だ、とも言えません。

彼らは、それよりも長く生きましたから。

このように、「荒野世代」という表現は、この件においては通用しません。

そして次に、詩篇ですが、モーセが書いた詩が一つだけあるのを、皆さんご存知でしたか？

唯一、詩篇90篇です。詩篇90篇は、書き記された最も古い詩で、その中で聖書は、明確に告げています。

### 1 【祈り。神の人モーセの詩。】

(詩篇 90:1a 新共同訳)

それから彼は、9節、10節で、こう告げています。

9 わたしたちの生涯は御怒りに消え去り、人生は、ため息のように消えうせます。

10 人生の年月は七十年程のものです。健やかな人が八十年を数えても、得るところは労苦と災いにすぎません。瞬間に時は過ぎ、わたしたちは飛び去ります。

(詩篇 90:9-10 新共同訳)

ですから、もうすでに知っての通り、20年とか30年というのは、世代の寿命ではありません。

また、荒野の世代の40年というのが当てはまらないことも、分かりました。

そして、詩篇を見れば、特にこれのほとんどをダビデが書いたという事実からして、また彼がほんの70歳しか生きていないとすれば、70歳、良くて80歳が世代の寿命です。

とても興味深いですね。

この3000年の間、70年から80年がこの場合、おそらく当てはまるでしょう。

もちろん、ダビデはそこで生きました。それから、研究によれば、基本的には、例えば、アメリカに住む人たちの平均余命は、1850年では、40年以下、しかし、1900年にはそれが47年にまで増加して、1999年には、77年まで急増しました。そして、20世紀の終わり、2002年の「THE WORLD ALMANAC AND BOOK OF FACTS」によれば、アメリカの平均余命は77歳、男性が74歳、女性が80歳です。

わお。あなたがたは、私たちなしでも生きられるけど、私たちは、あなたがたなしでは生きられません。

(笑)ただ、イスラエルでは79歳、男性77歳で、女性が81歳です。そして2025年には、イスラエルの平均余命は、82歳になると推測されています。

これで、70歳から80歳か、もう少し上であることが、分かりました。

では、イエスは、どの世代のことを言っておられたのでしょうか？

ここからが、このメッセージの一番いいところです。

ある人たち、ある教師たちは、イエスが「過ぎ去らない世代」について語られた時、彼は、イスラエルについて語っておられた、と考えます。しかし、私は、それは奇妙だと思うのです。なぜか？

それは、イエスはイスラエルを見る世代について言っておられて、いちじくの木について言及しているのではありません。彼が言っておられるのは、いちじくの木が息を吹き返すのを、『見る』世代のことです。だから彼は、その時の信者について語っておられるのだ、と私は信じています。終末の預言の中でも最も重要なのは、イスラエルの再誕、いちじくの木の新芽だと私は思っています。

皆さん、理解してください。聖書の中で、イスラエルは、異なるタイプの3つの木で描写されています。ぶどうの木、いちじく、そしてオリーブです。それぞれが別々のことを象徴しています。

ぶどうの木は、イスラエルの霊的特権の象徴、

いちじくは、イスラエルの国家的特権の特徴、だから、イスラエルは国家として誕生したのです。彼らは、未だ、神の民です。神は、今でも彼らのことを気にかけておられます。

しかし、国家として再誕し、故国に戻った国はありませんでした。

だから、国家的特権がいちじく、そして宗教的特権は、オリーブの木です。

深く根を張るオリーブの木です。アブラハム、イサク、ヤコブ。

神は、言われます。

「わたしが主である。わたしの名前は…アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神だ。」

ですから、誰かが皆さんに、

「我々ムスリムは、あなたと同じ神を信じているんだ。私たちは、アブラハムの神を信じている。」と言ったら、彼に、イサクとヤコブの神も信じているのか、聞いてみてください。

なぜなら、これが、私たちの神のフルネームですから。

もし彼らが、アブラハムで止めるなら、それは、同じ神ではありませんよ。皆さん？

さて、ぶどうの木に関しては、同じように、十分証拠があります。

詩篇80篇とイザヤ書5章、エレミヤ書2章。

それから、いちじくの木は、ホセア書9章が、いちじくの木について語っていて、エレミヤ書24章も、そしてもちろん、マタイ24章にも。

それから、オリーブの木は、ホセア書14章、イザヤ書17章、イザヤ書24章、詩篇52篇、詩篇128篇、そしてローマ書11章です。

ローマ書11章は、イスラエルが栽培種のオリーブの木で、異邦人が野生種のオリーブの木であると告げています。そしていくつかの枝が折られ、新しく、野生種である皆さん異邦人が“つぎ木された”と書かれています。今、皆さんは“代わり”ではなく、油の豊かな養分を“共に受けている”のです。すごいですね。

ですから、イスラエルにある特権を、彼らから取り上げることは出来ません。皆さんはつぎ木されて、今や、皆さんもその一部なのです。このために、どこでも、ユダヤ人を憎む人たちは、信者をも憎みます。どこでも、イスラエルを追放したい人たちは、信者たちを追放しますよ。これは、いつも一緒です。

そしてもし教会が、神はイスラエルを置き換えた、と教えているなら、実際には彼らは、神を嘲笑っているのです。彼らは実際には、「神は、コロコロと気を変える」と言っているのですから。

しかし、神が、皆さんとの約束を守られるという唯一の保険証書は、神が、イスラエルとの約束を守っておられる、という事実です。

そして、いちじくの木が、息を吹き返しているのです。永遠に死んだままではありません！

この写真を見てください。



イスラエルを訪問した時のマーク・トウェイン

ユダヤ人達が、1800年代の終わりにかけて、イスラエルの地に戻り始めた頃、彼らはマーク・トウェインが旅行者として、その日記の中に書いた通りのものを見たのです。

彼は、次のように書いています。

「こんな荒涼とした不毛の土地を、今まで一度も見たことがない。生き物を、一つも見かけない。」

アラブ人たちは、彼らがそこにいた、と言いますが、彼は、誰も見なかったのです。

彼は、さらに言っています。いえ、これは事実ですよ？

アラブ人のほとんどが、ユダヤ人移民の結果としてそこにやって来たのです。

ユダヤ人たちが商売をもたらし、ある種、開発の思想をもたらしたから、アラブ人たちは、彼らの元で働くために、来始めたのです。

興味深いのが、この人たちを見てください。

おそらく、ポーランドやロシアの人でしょう。確かに、そんな服装をしていますから。

彼らはただ、死んだ土地で農業をしようとしているだけです。彼らの最大の敵は、実際にはあちらのアラブ人ではありませんでした。ほとんどいませんでしたから。

彼らの最大の敵は“ハマダラ蚊”で、そこら中の沼地からマラリアを媒介したのです。

面白い事に、彼らがやって来るようになったのは、主が、2つのことを始められたからです。

主は言われました。

「よし。わたしは、あの、いちじくの木を生き返らせよう。」

“シオニズム”（ユダヤ人の国家建設運動）という言葉は、敵は嘲笑い、<sup>あざわら</sup>「あれは、めちやくちゃだ！」と言います。シオニズムとは、実際には、自分たちの故国に戻りたいという、ユダヤ人の願望です。故国とは、シオンのことで、シオニストの人なら、ユダヤ人である自分の居場所はシオンにあると信じています。それで、シオニズムと呼ばれるのです。いいですか？

ですから、シオン主義運動がヨーロッパで始まって、同時に、恐ろしい反ユダヤ主義が始まりました。そして、イスラエルに行きたいという願望と、彼らを他の地から追い出したいという、その他の者たちの願望が、いちじくの木が息を吹き返すための大きな手段となったのです。

なぜなら、ご覧ください。エゼキエル 36 章 8 節で、神は、言われます。

8 **だが、おまえたち、イスラエルの山々よ。おまえたちは枝を出し、わたしの民イスラエルのために実を結ぶ。彼らが帰って来るのが近いからだ。**

(エゼキエル 36:8)

何十万、何百万人ものユダヤ人が、こんな状態の土地に戻ることは出来ない、と主はご存知だったのです。それでは、絶対に上手く行きません。

そこで、主は何をされたか。主は、肥沃を命じられ、

バーン！



緑豊かなイスラエル

何が起こったか、見てください。

こんにちは、我々は食料を輸出しています。

聞いてください。農業に従事する人は、イスラエルの労働力の3.8%でありながら、我々は、自分達の食べる食料の、ほぼ100%を自給しています。

ユダヤの牛は、世界中で最も生産量の多い牛です。全てのモーが、コンピューター化されています。

牛は文句を言いますが、生産します。(笑)



乳生産コントロールシステム

我々は、水を採取する技術において世界一で、空中からでも水を採取します。

私たちは“細流かんがいシステム”を発明しました。私たちは脱塩システムの導入において世界でナンバーワンの輸出国で、世界中に設置し、イスラエルにもあります。

いいですか？私達は、他のどの国にも類を見ないほど、多くの太陽資源を利用しています。

そして、我々の汚水の90%が浄化され、農業で再利用されているのです。

皆さん、私は、ものすごい貯水槽のある場所へ行ったことがあります、そこで女性が、

「この深さは、どれくらいあると思いますか？」

と言いました。ものすごく澄んでいたので、私は、「3m?」と言ったら、彼女は、11mだと言いました。

だから、「えっ?!」と言うと、彼女は、「飲んでみてください。」と言います。

そこで飲んでみると、これがすごいのです。そしたら彼女は、言いました。

「良かった。今、トイレの水を流したばかりです。」

私は、「ナニ?!」「おお!!!!」と。

そしたら彼女は、言いました。

「いえいえ、そうではありません。私が流したトイレの水は、水草のある貯水槽に流れて行き、そこで水が浄化されて、それからまた次の貯水槽に流れて行くと、また次の水草が水を浄化するのです。それからまた、次の貯水槽へ行って、4つ目の貯水槽の終わりには、水は、完全に浄化されています。」



イスラエルの下水処理施設

わお。私たちはこれを世界中に輸出しているのです。このための電気も要りません。

水が浄化され、良質な状態になるまで、引力がそれを<sup>おこな</sup>行うのです。  
いいですか？

私達は、非常に多くの技術を全世界に輸出しています。インドは、世界中で最も人口の多い国ですが、彼らの軍装備輸入においては、我々は第3位です。つまり、彼らの第一の輸入先はロシア、次にアメリカ、そして、イスラエル。地図上の、あの“点”ですよ。

見てください。

これが、神の言われる、「いちじくの木が息を吹き返す」ということです。

さて、神は言われました。「まず、わたしは土地を備えなければならない。」

そして彼は、言われます。「次は、民を連れて来なければならない。」

しかし民は、ヨーロッパにいました。ただ、残念ながら、彼らは大変困難な中にいました。

エゼキエル 36 章では、神が、土地を癒し、ユダヤ人が故国へ帰還するのに備える、と語っている。それから、エゼキエル 37 章では、——エゼキエルは、干からびた骨でいっぱい谷に連れて来られます。そこでエゼキエルは、非常におののき、そして、「これは、何ですか？」と言います。すると主は言われました。

11 …「人の子よ、これらの骨はイスラエルの全家である。彼らは言っている。『我々の骨は枯れた。我々の望みはうせ、我々は滅びる』と。

(エゼキエル 37:11 新共同訳)

つまり、彼らは生きている、という意味です。

その骨は干からびているが、彼らは生きている。つまりそれは、骨と皮がありながら、希望のない人を意味します。彼は、神が、彼のことをすっかり忘れたと思っているのです。

よく覚えています。私は、この節について、非常に長い間考えていて、そして、この、我々が死の強制収容所から解放された時の写真に出くわしたのです。そしてこの、骨と皮の小さな少年を見ると、肉は、ほとんどありません。それから、彼の目を見てください。 希望が全くありません。

彼ら全員が思っていました。「神は、ぼくたちのことをすっかり忘れてしまった。」



強制収容所の少年

しかし神は、「違う！」と言われます。

12 それゆえ、預言して彼らに語りなさい。主なる神はこう言われる。わたしはお前たちの墓を開く。わが民よ、わたしはお前たちを墓から引き上げ、イスラエルの地へ連れて行く。

(エゼキエル 37:12 新共同訳)

パレスチナではありません。イスラエルの地です。そして彼は言われます。

13 わたしが墓を開いて、お前たちを墓から引き上げ…

14 わたしが、お前たちの中に霊を吹き込むと、お前たちは生きる。わたしは、お前たちを、自分の土地に住ませる。

(エゼキエル 37:13-14a 新共同訳)

他の人の土地ではありません。それはイスラエルと呼ばれ、それは、あなたがたのものだ。

だから、アメリカの大統領が、

「私は、エルサレムはイスラエルのものだと考える。」

と言ったのは、非常に聖書的です。政治的ではありません。

ですから、彼は言われました。

「聞きなさい。あなたは家族を持ち、あなたはイスラエルに来る。わたしは、あなたを、大いなる国にする。」

そこで私は、彼がどのようにして、それを文字通りに行われたのかを考えました。

次の写真を見てください。



世界中からのユダヤ人帰還

私たちは、大勢船に乗ってやって来ました。

これ、見てください！

ジャンボ機 747 の座席を全て取り除いて、そこにエチオピアのユダヤ人が、1000 人乗りました。

神に感謝なことに、彼らは、とてもとても痩せていたのです。(笑)

それだけで足りないなら、ユダヤ人は引き続き、イスラエルに帰還しています。近代の飛行機で、毎日です。これを見てください。イスラエルのシークレットサービスであるモサドの主要任務の一つは、ユダヤ人を故国に連れて来ることです。ご存知でしたか？敵を殺すことではありません。ユダヤ人達を故国へ戻すこと、それです。

そして 1948 年、国家が誕生しました。

1948 年、国家が生まれ、そこから、私達は、世代を数え始めます。

考えてみてください。1948 年、私達が国家として生まれた時は、毎日、絶滅寸前でした。

あの年、それから翌年も、その翌年も、毎日毎日、一日一日が、神からの贈り物でした。なぜなら私たちは滅ぼされているはずだったのです。

我々周辺の全ての敵は、日夜、どうすれば滅ぼせるかと、凝視していたのです。

1948 年、2 時間後…いえ、2 時間もありません。私たちが国家宣言した直後、レバノン、シリア、ヨルダン、エジプトが侵略して来ました。それだけでなく、イラクまでもが侵略して来たのです。

これで足りなければ、地元のアラブ人たちは、内側から始めました。

私たちがその戦争を終えた時、私達の領土は戦争を始める前よりも 30% 増えていました。

しかも、私たちがそれを行った 2 機の飛行機は、片手で操縦桿そうじゆうかんを握り、もう一方の手で爆弾を落とさなければならぬものでした。

それに、5 台の武装車両と、あと数万人の兵士達。経験など一切ありません。

彼らは、死の強制収容所を生き残ったばかりです。私の祖父母のように。奇跡です。

彼らは、イスラエルの勝利のいくつかを（アメリカ）陸軍士官学校に持って行き、将校達に、戦争の戦い方を教えようとしてました。彼らは、戦争の話を見て、その全てをゴミ箱に捨てたのです。何も教えることが出来なかったから。イスラエルは、何もすごいことは行っておらず、神が全ての所で、彼らのために戦われたのです。陸軍士官学校は、イスラエル戦争を使っただけで、何も教えることが出来ません。

1948 年、詩篇 83 篇が成就しました。詩篇 83 篇が告げている国々は全て、私達の周辺の国です。さらに彼は、アッシリアまで参加すると言います。こんにちのイラクです。

では、1948 年、彼らは、我々から、何を取りたかったのか？石油？ガス？

私達には、そのどちらもありませんでした。彼らは、私たちの国を消し去りたかったのです。

なぜかといえば、私たちが名前をパレスチナからイスラエルに変えたばかりでしたから。

## 4 …イスラエルの名がもはや覚えられないようにしよう。」

(詩篇 83:4)

それが、あの戦争でした。

この中にいる皆さんの中で、過去 10 年の間に生きておられた方は、どれくらいいますか？(笑)

ですから、この過去 10 年の間に、私たち、今ここにいる世代は、驚くべき、ものすごい移行を目にしているのです。

小さく弱く、不安定で危険、その上、貧しいイスラエルから、安心、安全で繁栄しているイスラエルへ。こんにち、私たちはこの地球上で強力な国、第八位にまでなりました。

そして現在、2018 年。70 年が過ぎました。

前回、私が詩篇を調べた時には、70 年、もしかすると 80 年がひと世代でした。

いいですか？

私は、ラッパの祭りと、ヨム・キプール、それから仮庵の祭りは、主が戻って来られた時に、イスラエルの民に、成就されると信じています。

ユダヤ人たちは、毎朝このように祈ります。

「あなたがあわれみをもってシオンに戻られるのを、私たちの目が見ますように。」

彼らは、祈る時こう言うのです。

彼らは、彼に、戻って来て欲しいのです。ただ彼らは、彼がもう戻って来たとは信じておらず、彼が、初めて戻って来ると信じているのです。

皆さん、理解しておいてください。

彼が戻って来られるのは、大患難の非常に恐ろしい時代であることを、彼らは理解しています。

そのために、彼が最終的に戻って来られるのだ、と。

そしてその時、ものすごい悔い改めの時となることも、彼らは理解しています。

悔い改め、仮庵の全ては、地上の全員に後で起こります。

神が、これらの祭りをイスラエルに成就されます。ちょうど、最初の 4 つを彼が成就したのと同じように。しかし私達は、異なる成就を目にします。

皆さん、理解してください。モーセは民数記 10 章で、銀のラッパを 2 つ作るように命じられました。

なぜ 2 つ、なぜ銀、なぜ、ラッパなのか？ラッパは、誰かが訪れる事を発表する道具です。

銀は、尊い金属だけれども、完璧じゃない。

2 つあるのは、私が思うに、唯一この地上で 2 種類の人たちだけを、神は「あなたは私の証人だ」と呼ばれたのです。

イザヤ書 46 章でイスラエル、そして、使徒の働き 1 章では教会です。

ただ、イスラエルの歴史、旧約聖書の間は全体を通して、教会は存在していませんでした。

しかし、教会が教会となった瞬間に、イスラエルは、土地から放り出されました。

国としてのイスラエルは、故国に戻っていませんでした。

それが唯一、1948 年以来、この 2 つが共存しているのです。

ラッパが鳴り響いています。だから聖書は、こう告げているのです。

「終わりのラッパとともに…」

私達は、ここから出て行きます。

私が思うに、1948 年は、ラッパの大きな響きでした。

1967 年は、ラッパの大きな響きでした。

そして、言わせてもらえば、2018 年もまた、ラッパの大きな響きでした。

私は、ただ、最後のラッパを待ち望んでいます。

さて聖書は、私たちにはその日その時は分からない、と告げています。マタイ 24 章には、こうあります。

36 **ただし、その日、その時がいつであるかは、だれも知りません。天の御使いたちも子も知りません。ただ父だけが知っておられます。**

(マタイ 24:36)

これは唯一、教会の携挙にしか当てはまりません。なぜか？

それは、大患難の終わりのイスラエルの救いに関しては、誰もが知っていますから。7年です。

7年の終わりは、誰もが知っています。私たちには、日数まで説明されているのです。

ここで唯一、私たちに欠けているのは、どこから数え始めるのか、ということだけ。

なぜかといえば、私たちがここを去って、それから数え始めるからです。

ですから、「主の日は夜中の盗人のように来る」と書かれているなら、これに皆が不意を突かれますが、私たちは違います。

聖書は、第一テサロニケ 5 章で告げています。

4 …その日が、盗人のように“あなたがたを”襲うことはありません。

(第一テサロニケ 5:4 “”は訳者補足)

3 “人々”(彼ら)が「平和だ。安全だ。」と言っているそのようなときに、突如として滅びが彼らに襲いかかります。

(第一テサロニケ 5:3 “”は訳者補足)

中東の平和、第三神殿の建設を祝うのは誰ですか？イスラエルです。

皆さん、お伝えしたいことがあります。

マタイ 25 章で、イエスは言われました。

13 だから、目をさましていなさい。あなたがたは、(人の子が来る)その日、その時を知らないからです。

(マタイ 25:13)

私たちには、その日、その時は分かりません。しかし、私たちは不意をつかれることはありません。

なぜなら私たちは、時代と季節を知っているからです。事実、聖書は告げています。

1 兄弟たち。それらがいつなのか、またどういう時かについては、あなたがたは、私たちに書いてもらう必要がありません。…

2 …あなたがた自身がよく承知しているからです。

(第一テサロニケ 5:1-2)

良い感じですね。

あまりにも多くの、自称クリスチャンたちが、見事に何も承知していません。

事実、彼らは、楽しみにさえしていません。

しかし聖書は、言います。「あなたがた自身が“よく承知している”」

2 主の日は、夜中の盗人のように来るということは、あなたがた自身がよく承知しているからです。

(第一テサロニケ 5:1-2)

なぜ、夜中の盗人なのか？と私は考えていたのですが、私達は、この世にいる限り、この世は闇の世界で、ローマ書 13 章 12 節によれば、

12 「夜はふけて、昼が近づきました。」

(ローマ 13:12)

ですから今、私たちは、最後の最後まで来ていて、昼が近づいているのです。

私たちは、まだその夜にいますよ。しかし、夜も最後の最後です。

第一テサロニケ 5 章 4-5 節は、私たちはまだ夜の中にも、私たちは昼の子どもだ、と告げています。

12 「夜はふけて、昼が近づきました。」

(ローマ 13:12)

5 あなたがたはみな、光の子ども、昼の子どもだからです。

(第一テサロニケ 5:5a)

そこで、次の御言葉で このメッセージを締めくくりたいと思います。ヘブル人への手紙 10:23-25 です。

あまりにも多くのクリスチャンが、本当に、疲れ果てていますから。

「あとどれくらい、ここに居るんだろう・・・」と。

だから私は、いつも彼らに言うのです。「いつも主にあって喜ぼう～！」

ピリピ人への手紙にそう書いてあります。そして、「主は近い。」(ピリピ 4:5)と告げています。

だから、喜ばなければならないのです。

23 …私たちは動揺しないで、しっかりと希望を告白しようではありませんか。

(ヘブル 10:23b)

希望とは？ 祝福された希望です。

23 約束された方は真実な方ですから…

(ヘブル 10:23a)

主が言われたことは、全て起こりました。なのに、なぜ、携挙について疑うのか？

イスラエルは故国に戻りました。まさに、彼が言われた通りに。

いちじくの木は生きています。

そしてこれ、見てください。

24 また、互いに勧め合って、愛と善行を促すように、注意し合おうではありませんか。

25 ある人々のように、いっしょに集まることをやめたりしないで、…

(ヘブル 10:24-25a)

21 世紀の教会の、最大の病は、人々が教会に行かなくなったことです。彼らはただ、コンピューターの前に座って、それが教会だと思っています。それは、教会ではありません。教会とは、教会です。いっしょになって礼拝することは、何にも代えることが出来ません。もし、あなたがそれを捨てるなら、あなたは、非常に弱い状態になります。それだけは言うておきます。

そして彼は言います。「あなた方は、今まで以上に・・・」

25 …かえって励まし合い、かの日が近づいているのを“見て”、ますますそうしようではありませんか。

(ヘブル 10:25b “” は訳者補足)

彼は、何と言いましたか？

「見て」です。「見て」

「見て」というのは、考えたり、希望することではありません。物理的に「見る」のです。

あなたは、イスラエルが故国に戻ったのを見ていますか？

あなたは、イスラエルが安心安全、繁栄へと移行したのを見ていますか？

あなたは、ロシュがはるばるやって来るのを見ていますか？

あなたは、彼らが我々の国境にいるのを見ていますか？

あなたは、イランとトルコが、イスラエルに敵対して凝視しているのを見ていますか？

あなたは、<sup>あご</sup>顎にかけられた<sup>かぎ</sup>鉤、私たちが発見した、石油とガスを見ていますか？

あなたは、イスラエルが咲き乱れているのを見ていますか？

彼は言います。

25 かの日が近づいているのを“見て”

(ヘブル 10:25)

お父様。ありがとうございます。私たちは、滅びない世代です。

お父様、私たちは知っています。

あなたが、この世代の条件を、はっきりと教えてくださいましたから。

お父様。私たちは、いちじくの木が息を吹き返すのを見ています。

イスラエルは、故国に戻り、安心安全で繁栄しているのを見ています。

私たちは、あなたが奇跡的に土地を癒されたのを見ています。

言語を復活させ、人々を地の四隅から、彼らの先祖の故国へと連れ戻し、そしてあなたは、他の何よりも高く、彼らを繁栄させました。このような状況の中で、こんなことが出来た国は、他にありません。

お父様。私たちは、あなたの指紋をいたるところに見ています。

そして、私たちに残された、私たちがするべき事は、ただ、かの日が近づいているのを見るだけです。動揺しないで、しっかりと希望を告白し信頼します。約束された方は真実な方ですから。

お父様。あなたがイスラエルの民を通して、私たちに見せてくださった、あなたの誠実に感謝します。あなたは、彼らを忘れませんでした。お父様。あなたは言われました。

「わたしの民、イスラエル。わたしはあなたの地に、あなたを連れて行く。

わたしがまた、わたしの霊をあなたがたのうちに入れると、あなたがたは生き返る。」

お父様、あなたの愛に感謝します。あなたの国イスラエルに対する、あなたの誠実に感謝します。

お父様。どうか、私たちがこれを見、これを目にして、花嫁として、自分自身を整えるようにしてください。今、この瞬間にも花婿が訪れることを期待します。

お父様。ありがとうございます。

あなたは、終わりの事を初めから告げ、まだなされていない事を、昔から告げ、

『わたしのはかりごとは成就し、わたしの望む事をすべて成し遂げる。』と言われます。

今日、私たちはあなたの御名を祝福します。

この全てを、他にない御名、イスラエルの聖なる方、神の小羊であられ、同時に、ユダの獅子であられる方、インマヌエル、平和の君、王の王、主の主、イエシュア、イスラエルの救い、全世界の啓示の光、イエスの御名によって祈ります。

全て、神の民は言います。アーメン。

---

メッセージ by Amir Tsarfati/Behold Israel : <http://beholdisrael.org/>

#### 【写真出典一覧】

ダマスカス空港で、UN、DHL の倉庫に偽装したイランの倉庫：The Jewish Link “Alleged Israeli strike said to taught Iranian weapons delivery in Damascus” September 16, 2018

イスラエルを訪問した時のマーク・トウェイン：PukiWiki Israel

緑豊かなイスラエル：Amir Tsarfati 氏大阪講演「エゼキエルの時」より

乳生産コントロールシステム：SCR Milking Control System

イスラエルの下水処理施設：igdan.org のウェブサイトより

強制収容所の少年：動画より

世界中からのユダヤ人帰還：動画より